

グリーグはこどもの頃から音楽の才能を発揮し、15歳でライプツヒに留学。そこで学んだロマン派の作曲語法とふるさとのノルウェー民謡とを合わせた、叙情豊かな音楽を作った。その独自性は、流れ落ちる滝のような出だしの《ピアノ協奏曲》や、親しみやすい旋律とともに北欧の情景が広がる《ペール・ギュント》などの作品に結実している。そんなグリーグの作風に、さらにバロック風の「味つけ」をした作品が本日の《ホルベアの時代から》だ。

北欧の妖精が舞い踊るような音楽

エドヴァルト・グリーグ

Edvard Grieg (1843-1907)

B

2025

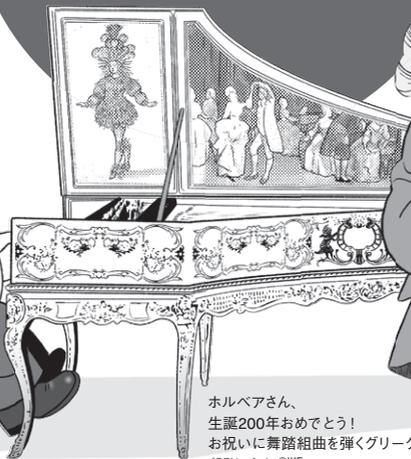
OCTOBER

[第2045回]



北欧文学の祖、ホルベア

ルズヴィ・ホルベア (1684~1754) は北欧文学の祖とも呼ばれるデンマーク・ノルウェーの劇作家。風刺喜劇や風刺小説で北欧文学を世界に広めた。法律、哲学、ラテン語、歴史、地理などを講じた万能学者としても知られている。グリーグは、そんな自国が誇る文人ホルベアの生誕200年にあわせて《ホルベアの時代から》を作曲した。



ホルベアさん、
生誕200年おめでとう！
お祝いに舞踏組曲を弾くグリーグ
イラストレーション：©IKE